



EV トुक Tuk



実は、記事冒頭にお話しいただいた風間さんと栗原さんが、ときがわ社中の構成員。「ときがわ社中」の名前のヒントは、渡邊町長の「亀山社中みたいだね」との言葉から発案したのだそうだ。「面白い」をフックに、チャレンジできる余白があるのが田舎です」と栗原さんは話す。

ミニ起業家が設立した地域商社
地域の悩みからしごとを生み出す

(一社) ときがわ社中

(一社) ときがわ社中は、ミニ起業家の同志が設立した、地域の悩みを発見・解決し、新たな魅力を創造・発信する地域商社。「持続的に“おもしろい”ときがわ町にする」ことをミッションに、地域でのしごとづくりやチャレンジづくりを共創している。これまで、地元自治体と連携し、学校での ICT 支援、地元企業の PR 動画撮影、県内初の EV トुक Tuk の導入などを行ってきた。今後は、「比企のジンジ」として、地域で人材採用と育成、定着に向けた仕組みづくりも行っていく。今日も、地域の悩みから“しごと”を生み出し、“おもしろく”解決に導く！



そして生まれる、 集まる、広がる。 場、人、仕事、笑顔

町にミニ起業家が増えていく。
そうして起こった現象は、移住者の増加だけでなく、
「これまでときがわ町になかったもの」が生まれ始めたのだ。

本屋のない町に、本屋ができた 本屋ときがわ町

ときがわ町には本屋がない。だから、関根さんを中心とした本好きなミニ起業家たちが集まり、令和元年から「本屋ときがわ町」が始まった。毎月第3日曜日に、役場本庁舎の敷地内にある起業支援施設 ioffice において開催され、12月17日(日)で第57回となる。新品、古本に加え、出店者が「参考になった箇所」や「役立つと思った箇所」に印がしてある『しるし本』など、出店者が思い思いに本を持ち寄り販売。現在では、最大6名のミニ起業家が出店する。本だけでなく、飲食や物販での出店、イベントやワークショップの実施も可能で、ミニ起業家のデビューにもうってつけ。これまで、「ピザづくり」や「太鼓の演奏」、「哲学カフェ」など、個性豊かな催しが行われてきた。中には「冷やしギャグ」を販売していた方も。



そして、ときがわ町に大学ができた 比企起業大学・大学院

関根さんが総長を務める「起業家マインドを身につける、学びコミュニティ」。「起業に関心はあるけれど、自分にできるのか、どうしたらよいかわからない」という方でも、きちんと起業について学べる場として開校した。現在では既に7期目となり、57名の卒業生が、地域で仕事をするミニ起業家（候補）として巣立っていった。在学生は、もともと起業している方から、社会人として働きながら学ぶ方、子どもを連れて参加する女性の方も多い。比企起業塾の流れをくむ大学院では、比企起業大学卒業生を対象にし、より実践的な内容を学習。顧客を3者獲得することを目指す。

比企起業大学

各学期(春季4月～8月・秋期10月～2月)
定員12名



理念は、「小さく始めて、大きくせずに、長く続ける」「長く続けるために、『自分の健康』『家族との時間』『仲間との協働』を重視」「従業員は雇わず、自分の力と仲間との協働で仕事を遂行」。ときがわ町の慈光寺は、かつて「学びの聖地」であった。それから長年の時を経て、ときがわ町に、ついに大学が、できたのだ。

※比企起業大学・大学院は、市民大学講座のサービスであり、学校教育法上の大学・大学院ではありません。



小さく起業する本や、地域系の本は、古本がなかなかないのでありがたいですね。しかもプロの選書なので、目の付け所が良い。ピンポイントに欲しい本があるので、いつも何冊か買っています。
自営業 Oさん (大字田中)

本屋ときがわ町

◆開催日時 毎月第3日曜日 10時～15時
◆開催場所 ときがわ町起業支援施設 ioffice
(役場本庁舎敷地内)

